

# どんな子みっけ!

節分が終わり、子どもたちの様子がガラッと変わって来ました。それはどの子どもも、“もうすぐ年中!年長!小学生!”と、また一つ大きくなる事を夢見ているからのようです。

「私ばら組がいいな。だってお隣りが年少さんなんだもん!」

「ボクはれんげさん。大好きな〇〇くんと一緒だもん!」

と願いを抱いたり、

「年長さんになったら、一緒に手を繋いでお誕生会に行くんだ〜」

「年長さんはお抹茶飲んだよね〜」

など、進級に対しての想いや楽しみにしていることもまたいろいろですが、みな進級に期待を寄せている気持ちが伝わってくることばですね。



そんな中、お母さんからこんな質問が寄せられました。「年長さんに進級するにあたり、やっておくことや心構えはありますか?」「年長になる期待を維持するにはどうしたらいいのでしょうか?」など、お母さま方の中にも、年長に進級することへの意気込みが感じられます。

そして、「年長へのプレッシャーを感じさせずに進級させるにはどうしたらいいでしょう。」というものもありました。それを読ませていただいて、“お子さんが進級を嫌がっているのかな?”と心配になりましたが、その子の幼稚園での様子を見てみると・・・観劇会の日、来年度の 신입園児さんが入ってくるのを、嬉しそうに見守りその場から離れず、ずっと笑顔で迎えていた姿がありました。先生たちは、「Nくん、小さいお

友だちが沢山来てくれて嬉しいね!」と声を掛けると満面の笑みで、「うん!」と答えていました。その顔は“ぼくがお世話してあげるよ!”と言わんばかりのお兄ちゃんの顔つきです。進級することに、プレッシャーより楽しみを感じているようでした。

この時期の先生たちは、子どもたちが少しでも多く期待を膨らませて進級してほしいと願って日々接していますから、おのずと「年中さんになったらプールが始まるの!みんな、お魚さんみたいにスイスイ泳げるようになるんですって!」と前向きに声を掛けます。そして、日頃からプールに行く年中・年長さんを、「大きなプールでお友だちと一緒に泳ぐんですって。お兄ちゃんたちすごいねー頑張ってるねー!」と、みんなで手を振ったりして見送るので、折に触れお兄ちゃんたちの姿に触れながら生活しています。ですから、お兄ちゃんたちを尊敬し、憧れている様子は手に取れるほどわかります。自然な形で、“次はぼくの番!”という意識に繋がっていくのです。そんな風に園生活を過ごしてきた穴川花園幼稚園の子どもたちは進級を楽しみにしていると思うのです。

お家と幼稚園でお子さんの姿が違う…こともあるのですが、“プレッシャーを感じている”と決めつけず、張り切っている気持ちを受け止めてあげましょう。そして不安を口にする様子があった時は、「お友だちと一緒にだから安心よ。心配なことがあったら先生にお話すればいいんだものね。」と言ってあげてください。そしてくれぐれも、「〇〇ちゃんと離れ離れになるのは寂しいね。」なんて、子どもたちの前向きな気持ちに水を差すようなことは言わないように!お母さんの心配ごとには遠慮なさらず、先生に相談してくださいね。



# こんな

「こんな」は、ようちえんで起こる  
こんなとき・こんなこと・こ～んなにを  
折々お届けします。

## 年中気分!

年中さんのお茶のおけいこを見学させてもらう日。登園してきた子の中に、「見て!白い靴下履いて来たよ!」と言う子がいました。前の日に先生から、「お茶のおけいこの時には白い靴下を履いて行くんですって。」と教えてもらったので、“僕も!”と、年中さん気分で登園したようです。

さて、お寺の書院に初めて足を踏み入ると、年中さんがお菓子をいただくおけいこの真っ最中でした。いつもの年中さんの様子とは違って、お菓子をいただいている時も、音を立てず姿勢を崩さずにいる姿を感じて、年少組も自然と背すじを伸ばします。“年中さんってかっこいい!”という想いが、「静かにしなさい」「正座しなさい」なんて言われなくても、一生懸命まねをしてみる姿に表れていました。身近に良いお手本がいることが、子どもたちの成長に欠かせないことを改めて感じました。

## 年少組



年中さんはお菓子をいただいています。いいな、食べたいな!」なんて声は聞こえませんが、ただただ真剣な年少組。

## 年長さんになったら…



おもいで遠足の帰り道…年長さんはモノレールで帰るので、年少さんのお世話は年中組が頑張りました！

一日入園を終えたある日、先生が子どもたちに声を掛けました。「昨日ね、幼稚園にてんとう虫組さんが来たのよ。」するとAちゃんが、「知ってる！Mちゃんたんぼ組になったんでしょ！」と言います。Mちゃんは、Aちゃんと同じバス停の年長さんの妹。来年度入園したら一緒に通うことを楽しみにしているようでした。すると、こんな会話が始まりました。



Mの姉 : 「Mちゃん『幼稚園行かない！』って。バスに乗る時泣くよ。私、学校に行っちゃうから、Aちゃんよろしくね！」



Aちゃん : 「うん！」

嬉しそうなAちゃん。それを聞いていた周りの子ども、「私もお世話する！」と言い出します。お世話をしてもらった体験や、優しい年長さんの姿に憧れて、自分もそんな風になりたい気持ちが膨らんでいるのだなあと感じた出来事でした。



## こ～んな子みっけ!

節分編



西南西の方角を見ながら、恵方巻きかぶりつく年長組。

冬たんけん編



お鍋のフタが開いて、湯気が立ち上がる様子に思わず歓声！

## はなまる更新!

子どもは風の子！その名の通り、寒さも北風もなんのその。午前中の活動の後や、お弁当の後など、少しでも時間があると「外に行っている？」と聞きに来たり、先生が「もうお帰りの時間なもの」と伝えると、「ちょっとでいいから…すぐお片付けして帰ってこられるから！」と必死に説得するほど、戸外遊びに行きたくて仕方ない年長組。

その理由は縄跳び。それぞれお家から持って来た縄と、縄跳びカードを手に、手の空いた先生を見つけては、「数えてください！」とカードを差出します。

縄跳びカードは、跳ぶごとに5回・10回…50回の枠に、先生に数えてもらってはなまるを付けてもらいます。先生に見てもらわないとはなまるがもらえないので、積極的にお願いしにくのです。最初は一回も飛べなかった子もいますが、昨日まで跳べなかったのが、急に跳べるようになり、練習するごとに10回20回と回数も増え、跳び方も上手になって行きます。記録をどんどん更新する様子には先生たちもびっくり。“跳べるようになりたい”想いと共に、カードに大きい数字が増える喜びも加わって、子どもたちを動かす！そして、諦めずに跳び続けたことが実を結ぶ体験を、小さいうちからたくさんしてほしいと思います。



レベルアップするごとに、色々な先生に報告にくる年長組。小学校でも縄跳びの授業があるので…これなら安心！

